最新標準日本語讀本

中日文對照
原文標音
字句註釋
文法分析

謝新發編譯
趙長年校訂

正文書局印行

第三册

- 本書是最具權威的日本語讀本；
- 本書是國人學習日本語的惟一利器；
- 本書爲日本國際學友會採用的日本語教本；
- 本書在日本擁有一百一十七萬讀者，已發行第十

S 013163

H36
8810
3

謝新發編著
趙長年校訂

最新標準日本語讀本

（第三册）

正文書局印行

S9007784

贈書先生宜景石
年　月　日

最新標準日本語讀本（三册）目次

第一課　雨ニモマケズ——不怕風吹雨打……一
第二課　野バラ——野玫瑰……七
第三課　日本と外国との交通——日本和外國的交通……二〇
第四課　ことばのいろいろ——各種語言……二八
第五課　良寛さま——良寛和尚……三六
第六課　科学と人の心——科學和人性……五四
第七課　いろいろな書式——應用文體……六〇
第八課　父と子の手紙——父子的信……七四
第九課　貨幣——貨幣……八三
第十課　電気と私たちの生活——電化和我們的生活……九一
第十一課　小泉八雲——小泉八雲……九九

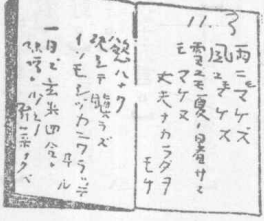
第十二課　いなむらの火——稻草堆的一場火……一〇八
第十三課　農業——農業……一一七
第十四課　にれの町——榆林的都市……一二七
第十五課　くもの糸——蜘蛛之絲……一四一
第十六課　林業——林業……一五五
第十七課　ラジオのニュース——廣播新聞……一六四
附錄：日語文法表解……一七七

第一課　雨ニモマケズ

宮沢賢治

雨ニモ①マケズ②
風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ③
丈夫④ナカラダヲモチ⑤
欲⑥ハナク⑦
決シテイカラズ⑧
イツモ⑨シズカニワラッテ⑩イル
一日ニ玄米⑪四合ト
味噌⑫ト少シノ野菜⑬ヲタベ
アラユル⑭コトヲ
ジブン⑮ヲカンジョウ⑯ニ入レズ⑰ニ
ヨクミ⑱キキシワカリ

ソシテワスレズ
野原⑲ノ松ノ林ノ陰ノ
小サナ萱ブキ⑳ノ小屋ニイテ
東ニ病気ノコドモ㉑アレバ
行ッテ看病㉒シテヤリ
西ニツカレタ㉓母アレバ
行ッテソノ稲ノ束㉔ヲ負イ㉕
南ニ死ニソウ㉖ナ人アレバ
行ッテコワガラナクテモイイ㉗トイイ
北ニケンカ㉘ヤソショウ㉙ガアレバ
ツマラナイ㉚カラヤメロ㉛トイイ
ヒデリ㉜ノトキハナミダヲナガシ



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

一　サムサノナツハオロオロ㉝アルキ　ソウイウモノニ
2　ミンナニデクノボー㉞トヨバレ　ワタシハ
一　ホメラレ㉟モセズ　ナリタイ
　　クニモサレズ㊱

【註　釋】

①【ニモ：にも—……也＝「雨ニモマケズ」可譯爲「雨也不怕」。】
②【マケゲ：負けず—不輸、不吃敗仗＝「雨ニモマケズ」直譯爲「也不輸給雨」；可是，中文沒這麼說的—只能譯「不怕雨打」。】
③【マケヌ：負けぬ—不輸給＝意譯爲「不怕……。」】
④【ジョウブ：丈夫—强壯。】
⑤【モチ：持ち—具有。】
⑥【ヨク：欲—慾望。】
⑦【ナク：無く—沒有。】
⑧【ケッシテイカラズ：決して怒らず—絕不動怒。】
⑨【イツモ：何時も—無時無刻不在、老是、始終都是……。】
⑩【ワラツテ：笑って—笑。】
⑪【ゲンマイ：玄米—糙米。】
⑫【ミソ：味噌—豆醬。】
⑬【ヤサイ：野菜—蔬菜。】
⑭【アラユル：凡ゆる—一切。】
⑮【ジブン：自分—自己、本身】
⑯【カンジョウ：勘定—計算、結賬。】
⑰【イレズ：入れず—沒有放進裡面；沒有包含在內。】
⑱【ヨクミ：良く見—好好看、用心看。】
⑲【ノハラ：野原—草原、野外、原野。】
⑳【カヤブキ：萱ぶき—茅草蓋的……。】
㉑【コドモ：子供—孩子—指一般的孩子而言。】
㉒【カンビョウ：看病—看護。】
㉓【ツカレタ：疲れた—累、疲勞。】
㉔【タバ：束—堆、束、把。】
㉕【オイ：背い—背著。】
㉖【シニソウ：死にそう—快要死、臨終。】
㉗【コワガラナクテモイイ：恐がらなくてもいい—不用害怕。】
㉘【ケンカ：喧嘩—打架。】

㉙【ソショウ：訴訟—打官司、告法院。】
㉚【ツマラナイ：つまらない—無聊、沒什麼好。】
㉛【ヤメロ：止めろ—住手、停手。】
㉜【ヒデリ：旱日—乾旱。】

㉝【オロオロ：おろおろ：畏畏縮縮、顛顛倒倒。】
㉞【デクノボー：でくの棒—呆瓜、傻子。】
㉟【ホメラレ：賞められ—被誇獎。】
㊱【クニモサレズ：くにもされず—也不被嫌忌。】

第一課　不怕風吹雨打

宮澤賢治

不怕風吹
不怕雨打
不怕飛雪也不怕夏天的炎熱
有了一副强健的身體
既沒有慾望
也絕不動怒
日夜靜靜地笑著
一天吃四合糙米
吃一點豆醬跟蔬菜
一切的一切
不把自己的事放在心上
用心看　小心聽　隨即領會
然後牢牢記住

住在荒野中的　松林的蔭綠下
一座小小的草茅屋裡
東邊如果有生病的孩子
趕去給他照料
西邊倘若有累壞的母親
趕去幫她背稻稭
南邊假使有奄奄一息的人兒
趕去安慰他說　不用害怕
北邊要是有打架如打官司的
勸阻他們這無聊的勾當
乾旱的當兒　淌著眼淚
寒冷的夏天　慢吞吞地走
教大家叫他大傻瓜

既不被恭維
也不被討厭
我是

想做
那一種人哪

【作者簡介】

宮澤賢治・明治二十九年（一八九六）に岩手県に生まれ、家は質屋と古着商をしており、二十三才のとき、盛岡高等農林学校を卒業した。昭和八年九月、三十八才の若さでなくなった。短い一生だったが、そのあいだに五年ばかり農学校の教師をしのち退職して、農民の指導につくした。かたわら、詩を作り、童話や脚本の執筆にもいそしんだ。

大正十三年（一九二四）処女詩集「春と修羅」と「注文の多い料理店」という童話集を自費で出版した。このほかに、「風の又三郎」「セロ弾きのゴーシュ」「銀河鉄道の夜」などがある。この「雨ニモマケズ」の詩は、作者の死後、発見された手帳の中に書かれてあったもので、そのためにことばの使い方に覚え書きのような感じがある。心のおもむくままに浮かんで出たことばを、そのまま、なんのたくらみもなく、すらすら書いたようなひびきの楽しさがある。

【作者簡介】

宮澤賢治，明治二十九年（一八九六）生於日本岩手縣，家業當舖與舊估衣商。二十三歲畢業於盛岡高等農林學校，以三十八歲少壯之年，長辭人世。在短暫的一生中，當過五年的農校教員，辭職之後，一面爲指導農民而盡力；一面勤奮地從事詩、童話、劇本的寫作。

大正十三年（一九二四）自費出版處女詩「春天與阿修羅」；以及童話集「生意興隆的菜舘子」此外還有「風之又三郎」、「彈大提琴的哥休」、「銀河鐵路之夜」等作品，這首「不怕風吹雨打」的詩是作者逝世之後，記載在被發現的手册裡；因此有一種記錄似的感覺。心裡所率直的表現在詞句中，沒有絲毫矯揉做作，下筆流利、斐然成章。

【新出漢字】

欲　決して　玄米　野菜　松　陰　看病

稲　負う　質屋　若さ　退職　指導

処女詩集　出版　浮かぶ

【漢字のじゅく語】

退職　退学　退社　退場　退院　退化

【生　字】

欲望　絕對　糙米　蔬菜　松樹　陰影

看護　稻　背負　當舖　年輕　離職　指導

處女詩集　出版　浮現

【新　詞】

離職　退學　離職（公司）　退場　出院

退化

【反対のことば】

退職—就職　退学—入学　退社—入社
退場—入場　退院—入院　退化—進化

【問題】

(一) 最後の「ソウイウモノニワタシハナリタイ」の「ソウイウモノ」とはどんなものか。

(二) 「サムサノナッ」とはどんなことだろう。またなぜそのときには「オロオロアルキ」なのだろう。

(三) この詩をよく読んで、作者のいおうとしている内容を、よくわかるようにふつうの文章に書きあらためてみなさい

(四) この詩にふさわしい読みかたをくふうして読んでみなさい。

【相反詞】

離職—就職　退學—入學　離職（公司）—就職—（公司）　退場—進場　出院—入院
退化—進化

【問題】

(一) 最後一段的「我是想做那一種人哪」的「那一種人是指的什麼」？

(二) 「寒冷的夏天」是指什麼？爲什麼那時候「慢吞吞地行走」？

(三) 精讀這首詩，改寫成散文一類的文章，好教讀者明瞭：作者所表現的內容。

(四) 研究適於這首詩的讀法。

第二課　野バラ

小川未明

大きな国と、それより①少し小さな国とがとなりあって②いました。とうざ③、その二つの国の間にはなにごと④も起こらず⑤平和でありました。

ここは都から遠い、国境であります。そこには両方の国から、ただ⑥ひとりずつ⑦の兵隊がはけん⑧されて、国境をさだめた⑨石碑を守っていました。大きな国の兵士は老人でありました。そうして、小さな国の兵士は青年でありました。

ふたりは石碑のたっている⑩右と左に番⑪をしていました。いたって⑫さびしい山でありました。そして、まれにしか⑬、そのへん⑭を旅する人かげ⑮は見られなかったのです。

はじめ、たがいに⑯顔を知りあわない⑰間は、ふたりに敵か味方かというような感じがして、ろくろく⑱ものも言いませんでしたけれど⑲、いつしかふたりはなかよし⑳になってしまいました。ふたりは、ほかに話をする相手㉑もなく、たいくつ㉒であったからであ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ります。そして、春の日はながく、うららか㉓に頭の上に照りかがやいて㉔いるからでありました㉕。

ちょうど㉖、国境のところには、だれが植えたということもなく、一かぶの野バラが、しげって㉗いました。その花には、朝早くからミツバチがとんできて集まっていました。そのこころよい㉘羽音が、まだふたりのねむっているうちから、夢ごこち㉙に耳に聞こえました。

「どれ、もう起きようか。あんなミツバチが来ている。」と、ふたりは申し合わせたように㉚起きました。そして外へ出ると、はたして㉛、太陽は木のこずえ㉜の上に元気よくかがやいていました。

ふたりは岩㉝から出る清水で口をすすぎ㉞、顔を洗いにまいりますと、顔を合わせました㉟。

「やあ、おはよう。いい天気でございますな。」

「ほんとうにいい天気です。天気がいいと、気持がせいせい㊱します。」

ふたりは、そこでこんな立ち話㊲をしました。たがいに頭をあげて、あたりのけしきをながめました。毎日見ているけしきでも、新しい感じを、見るたび㊳に心にあたえる㊴ものです。

青年はさいしょ㊵将棋の歩みかた㊶を知りませんでした。けれど㊷も老人について、それをおそわり㊸ましてから、このごろは、のどか㊹な昼ごろには、ふたりは毎日、向かいあって㊺将棋をさして㊻いました。

はじめのうち㊼は、老人のほうがずっと㊽強くて、こまを落として㊾さしていましたが、しまいには㊿、あたりまえ(51)にさして、老人が負かされる(52)こともありました。

この青年も、老人も、いたっていい人々でありました。ふたりとも正直で、親切でありました。ふたりはいっしょうけんめいで、将棋盤の上で争っても、心はうちとけて(53)いました。

「やあ、これはおれの負けかいな。こうにげつづけては(54)、苦しくてかなわない(55)。ほんとうの戦争だったら、どんなだかしれん。」

と老人は言って、大きな口をあけて笑いました。

青年はまた、勝ちみ[56]があるのでうれしそうな顔つきをして、いっしょけんめいに目をかがやかしながら[57]、相手の王様[58]を追っていました。

小鳥はこずえの上で、おもしろそう[59]に歌っていました。白いバラの花からは、よいかおりを送ってきました。

冬は、やはり[60]その国にもあったのです。寒くなると老人は、南の方をこいしがりました[61]。

その方には、せがれ[62]や孫が住んでいました。

「早く、ひまをもらって[63]帰りたいものだ。」

と、老人は言いました。

「あなたがお帰りになれば、知らぬ人が、かわり[64]に来るでしょう。やはり親切な、やさしい人ならいいが、敵、味方[65]、というような考えを持った人だとこまります[66]。どうか[67]、もうしばらく[68]いてください。そのうち[69]に春がきます。」

と、青年は言いました。

やがて⑦⓪冬が去って、また春となりました。ちょうどそのころ、この二つの国は、何かの利益問題から、戦争を始めました。そうーますと、これまで毎日、なかむつまじく⑦①くらしていたふたりは、敵、味方のあいだがら⑦②になったのです。それがいかにも⑦③、ふしぎなことに思われました。

「さあ、おまえさんとわたしは、きょうからかたきどうし⑦④になったのだ。わたしはこんなにおいぼれて⑦⑤いても少佐だから、わたしの首を持って行けば、あなたは出世⑦⑥ができる。だから殺してください。」

と、老人は言いました。

これを聞くと、青年は、あきれ顔⑦⑦をして。

「何を言われますか。どうしてわたしとあなたとが、かたきどうしでしょう。わたしの敵は、ほかになければなりません。戦争はずっと北の方でひらかれて⑦⑧います。わたしは、そこへ行って戦います。」

と青年は言い残して79、去ってしまいました。

国境には、ただひとり老人だけが残されました。青年のいなくなった日から、老人はぼうぜん80として日を送りました。野バラの花がさいて、ミツバチは、日があがる81と、くれる82ころまで群がって83います。今、戦争はずっと84遠くでしているので、たとい85耳をすまして86も、空をながめても、鉄砲87の音も聞こえなければ、黒いけむりのかげすら88見られなかったのであります。老人は、その日から、青年の身のうえ89を案じていました。日はこうしてたちました90。

ある日のこと、そこを旅人が通りました。老人は戦争について、どうなったかとたずねました。すると、旅人は、小さな国が負けて、その国の兵士はみなごろし91になって、戦争は終わったということを告げました。

老人は、そんなら青年も死んだのではないかと思いました、そんなことを気にかけながら92、石碑のいしずえ93にこしをかけて、うつむいて94いますと、いつか知らず、うとうと95といねむり96をしました。かなた97から、おおぜいの人の来るけはい98がしました。

見ると、一列(99)の軍隊でありました。そして、馬に乗ってそれを指揮するのは、かの青年でありました。その軍隊はきわめて(100)せいしゅく(101)で声ひとつたてません。やがて老人の前を通るとき、青年は黙礼をして、バラの花をかいだ(102)のでありました。

老人は何かものを言おうとすると、目がさめました(103)。それはまったく(104)夢であったのです。それからひと月ばかり(105)しますと、野バラがかれて(106)しまいました。その年の秋、老人は南の方へひまをもらって帰りました。

【註　釋】

①【それより：其れより—比起那……。】
②【となりあって：鄰り合って—相鄰。】
③【とうざ：当座—當時。】
④【なにごと：何事—任何事、任何糾紛。】
⑤【へいわ：平和—和平。】
⑥【たゞ：只—只有。】
⑦【ひとりずつ：一人ずつ—各一個】
⑧【はけん：派遣—派遣。】
⑨【さだめた：定めた—規定、劃定。】
⑩【たっている：立って居る—豎立的……。】
⑪【ばん：番—看守、守衛。】
⑫【いたって：至って—極爲。】

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.co